NIE実践報告

1．タイトル：言語活動の充実をめざしたＮＩＥ公開デイベート

2．学校名

鹿児島県城西中学校

3．実践者名（代表者名）

福丸恭伸

4．学年

第２学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間，特別活動（学校行事）　24人

6．単元（本時の学習課題）名

「原子力発電所の是非を地球環境の観点からデイベートしよう」（環境・国際理解）

7．目標(狙い)

原子力の是非を環境の視点から討論することによって，これからの地球環境の在り方を課題意識をもって考え，判断する力を養う。

8．評価の視点

討論するための十分なリサーチを行い，新聞等の資料に基づき，文化祭で説得力のあるデイベートに取り組むことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「原子力発電の是非を地球環境の観点からデイベートしよう」[総合的な学習の時間：８時間]
「文化祭での公開デイベート」[特別活動（学校行事）：２時間]　合計１０時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①賛成側立論（原子力発電賛成側の基本的考え方及び賛成理由を資料を活用して発表する。）＜４分＞
②反対側立論（原子力発電反対側の基本的考え方及び反対理由を新聞等の資料を活用して発表する。）＜４分
③賛成側から反対側への質疑応答＜３分＞
④反対側から賛成側への質疑応答＜３分＞
⑤賛成側総括討論＜２分＞
⑥反対側総括討論＜２分＞

（留意点）
・デイベートを文化祭で発表するに際して，観覧する生徒・保護者に対しては賛成側・反対側のどちらが正しいかを判断するのではなく，どちらが説得力があったかを判断するよう説明する。
・デイベートでは感情的な意見に流されないよう，新聞・グラフ等の各種資料に基づき，根拠のある意見が出されるように十分なリサーチを進めておく。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

生まれて初めて新聞を活用したしかも公開デイベートで，生徒もはじめは方法が分からずとまどっていたが，２人制デイベートでペアを組みリサーチを進めた結果，文化祭当日は体育館ステージで新聞等の各種資料に基づき根拠のある意見を堂々と発表でき，大成功だった。

12．成果と課題

学校行事の中でデイベートを行うことにより，それまでのパソコンソフトを使ったプレゼンテーションでははかることのできなかった活発な意見交換が可能となり，充実した言語活動となった。環境という視点で，しかも新聞活用で，主観的な意見に流されない論理的な思考・判断を行う契機となった。原子力発電という判断の分かれるテーマは重いものであり，しかも東日本大震災直後だったら，まったく違った展開になっていたかもしれない。それでも地球環境という視点から新聞を活用し，討論することはこれからの社会の在り方を考えていく上で，生きる力の育成の上で，ＮＩＥは大きな効果があると考える。